

論文審査の要旨

博士の専攻分野の名称	博 士 (工 学)	氏名	塚野 路哉
学位授与の要件	学位規則第4条第1・2項該当		
論 文 題 目 前川國男の屋上庭園に関する研究 (Study on the Roof Garden by Kunio Mayekawa)			
論文審査担当者			
主 査	准教授	千代 章一郎	印
審査委員	教 授	西名 大作	印
審査委員	教 授	中村 尚弘	印
審査委員	准教授	岡河 貢	印
審査委員	准教授	田中 貴宏	印
審査委員	准教授	角倉 英明	印
〔論文審査の要旨〕			
<p>本論文は、建築家前川國男(1905-1986)の屋上庭園に着目した研究であり、屋上庭園の通時的な変遷の分析に加え、屋上庭園の出自、及び、発展的な展開までを包括的に分析することで、前川國男の建築制作論としての新しい知見を得ることを目的としている。</p> <p>第1章では、研究の時代的な背景として、近代の日本で作られた屋上庭園と前川國男の屋上庭園を通時的に比較することで、前川國男の屋上庭園の特徴を建築類型に見出している。</p> <p>第2章では、前川國男自身が屋上庭園に関して直接的に言及している言説を抽出し、対象作品を分析することで、前川國男の屋上庭園の出自がル・コルビュジェ(Le Corbusier, 1887-1965)の屋上庭園であることを明らかにしている。</p> <p>第3章では、前章で明らかにしたル・コルビュジェの屋上庭園に着目し、前川國男がとりわけ着目したサヴォワ邸(Villa Savoye, 1932)とマルセイユのユニテ・ダビタシオン(Unité d'Habitation de Marseille, 1952)という2作品に関する前川國男独自の解釈を明らかにしている。すなわち、サヴォワ邸に関しては、形態的な特徴にさほど関心を寄せず、空中庭園と屋上庭園が段状に連続する半屋外空間全体に着目し、同時に屋内居室との視覚的な連続性や周辺環境への眺望にも着眼を置いていることを明らかにしている。一方、マルセイユのユニテ・ダビタシオンに関しては、構成要素の彫塑的形態や屋上庭園の公共性に関心を示していることを明らかにしている。</p> <p>第4章では、前川國男自身の屋上庭園の通時的な変化を分析するとともに、地上と非地</p>			

上をシームレスに結ぶエスプラナードへの展開を考察している。すなわち、第一に、前川國男が周辺環境への眺望が消失する高度経済成長期において、屋上庭園にル・コルビュジエから受容した空間構成を付加することで、それまでの日本にはない公共性を創出していることを明らかにしている。そして第二に、屋上庭園で用いていた段状の構成を地上にまで延長させ、周辺環境との連続性を付加することで、エスプラナードという新たな公共空間を創出していることを明らかにしている。

本論文において著者が明らかにした前川國男の建築手法は、特定の時期や特定の主題を研究対象とした従来の論考では明らかにされてこなかった事柄であり、前川國男がル・コルビュジエの屋上庭園から着想を得て、その表現の仕方を変えながら日本の公共建築へと応用していく変遷過程を明らかにしている。前川國男が近代の日本で用いたこれらの手法は、建築と周辺環境を連関させる手法として再評価できるものであり、近代建築史としての独自性及び有用性が認められる。

以上、審査の結果、本論文の著者は博士（工学）の学位を授与される十分な資格があるものと認められる。

備考：審査の要旨は、1,500字以内とする。